

祭年年命命之之郎ウヤ一チ敬積積保保故故

万燈慰靈大祭



九月一日より 月始祭火祭祈建
は初伝作法を伝授せし教師等に順
にて執行させることにした。
九月十三日、午後五時三十分ヒ
り開祖様御尊父故保積敬一郎大人
之命、開祖様御母堂故保積チヤウ
大刀自之命の式年祭並万燈慰靈大
祭を斎行、久方ぶりに私が斎主を
奉行す。前日迄の雨模様にて祈祷
殿に提灯や風鈴を飾り祭場を舗設
す。殿内の為、例年の半数ほどの
一千張に満たぬ数ではあるが、信
奉者の真心が御靈火となり美しき
輝きを醸し出した。一時間四十五分
の儀式ではあつたが、静寂なる

行草书“息”字，墨色浓淡相间，笔触有力。左侧有“龚正元”署名及“丁巳年夏月”款识。

時空間を超える神靈界の斎場となつた。

一万柱に及ぶ御靈等の慰めを感じ応すものである。我が慰靈の斎庭には教信奉者閑縁靈のみならず衆しみにしている靈界の数十万數靈ともの御靈等が、共に清め慰まれしごとを神示されている。類い稀なる大和神道の慰靈祭といえよう。

万燈祭の翌十四日、出羽三山神社宮司宮野直生先生が御礼のご参拝に上られた。羽黒山三神合祭殿御再建二百年記念事業として、羽黒山鏡池玉垣御奉獻並羽黒山大鳥居御建替竣工の記念品として、九年の歳月をかけて三山を撮り続け

ての誠に立派な写真集を持参された。撮影者は伊勢神宮のご遷宮を八年間に亘り撮影された、著名写真家の稻田美織氏という。伊勢志摩サミットをも撮影されたという。私も写真集を感動をもつて鑑賞させて頂いた。有り難き御品を拝受せし。本年の出羽三山登拝への御礼も重ねて賜った。一時間半程歎談す。ご多忙の中ご来山賜りしに手を合わすばかりである。

九月二十一日、二十二日には秋の御行なる六根大行が星空の下にて行修された。教主自ら大先達となりてお仕え申した。顕幽合わせて百二十七数の参行者であった。

初夏の祓禊大行そして秋^{（あき）}の六根大行と大神のみちびきの任に、大きく神化なしての御行となる。時機来たりての大神の神伝を押し奉りての行法の真柱が建てられたを感じ得す。次は十一月の十種大行ではあるが、八割程の行法次第が神伝されている。誠に有り難きことではある。諸々の祈蹟を生ぜしを信念するものである。これも我が壱千日謹行への神々よりの賜りものと有り難く拝謝すればかりである。行中にて振鈴すも今朝は余り痛み苦しさを感じられぬ右肘であつた。この月は数多の信者さんが特別神事を乞いて、大神の神威に縋られお救いを受けられた。私も身上の悪いもありしが、御神助をもつて神事遂行させて頂けたは、本当に有り難き極みであつた。

毎朝の謹行後の教座において、吾が御教えの尊さを、教威^{（みちから）}を説かせ頂いている。

万物一切を救うは大和の感謝なりとの、神理の深き信解信行をもつて、信奉者の皆を教化育成し

セ頂いてる
万物一切を救うは大和の感謝な
りとの、神理の深き信解信行を
もつて、信奉者の皆を教化育成し
てほしいものと希つてゐる。
大和はこれから大きく世に出る。
その第一步を今、正に踏み出そう
としている。御神導あれと祈る。

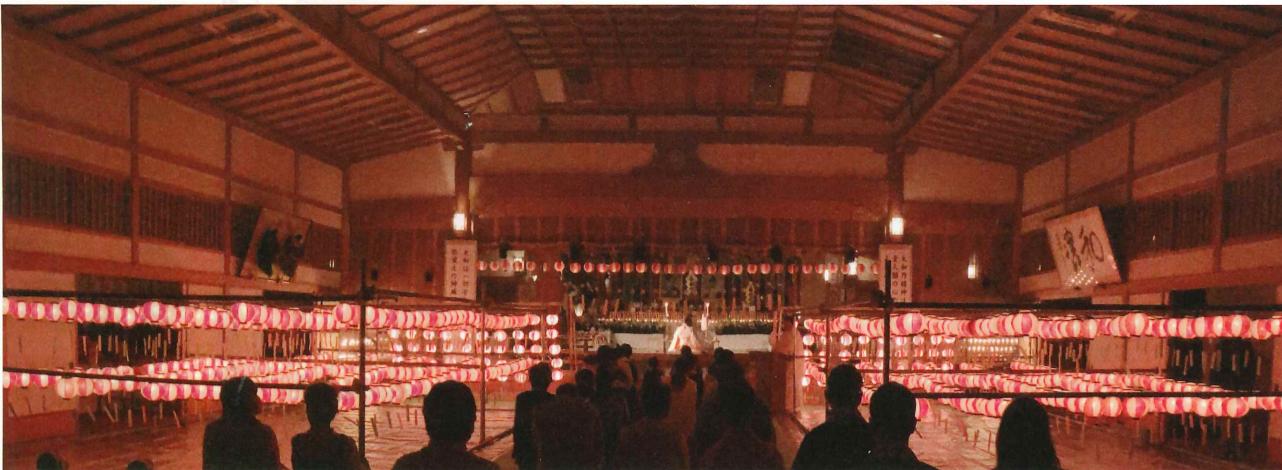
教

令和二年九月二十四日
壹千日謹行七五五日

教
主

故保積一郎之命七十一年祭
万燈慰靈大祭

故保積敬一郎之命七十年祭
故保積チヤウ之命七十二年祭



参列者により点火された一千張の提灯の美しき御靈火

午後五時三十分、参進太鼓を合図に斎主教主様以下祭昌が入殿、開祭詞が告げられ、修祓の後、参列者一同による献灯之儀が行われ、大前に献供された。

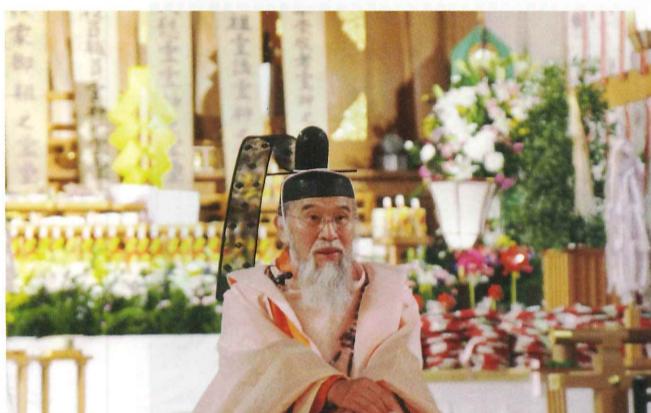
引き続き、一万柱に及び靈籠奉獻之儀が執り行われ、祭員の手により御神前に靈籠簿が奉獻された。

次に斎主祈念降靈を執行、開祖様御尊父故保積敬一郎之命、開祖様御母堂故保積チヤウ之命をはじめて、御靈等をお迎え申し上げた。

斎主教主様により式年祭詞が厳かに奏上され、綾瓊神歌にて祈り申し上げ、万燈慰靈大祭詞が奏上された。

続く淨靈之儀では、参列者の手により万燈提灯に御靈火が灯されると、淨闇の中に美しき情景が次々と浮かび上が

九月十三日の夕刻、大國神社において、万燈慰靈大祭と併せて、開祖様御尊父故保積敬一郎之命七十年祭、並びに開祖様御母堂故保積チヤウ之命七一年祭が斎行された。本年は天候を鑑み祈禱殿内での執行とし、一千張の万燈提灯、及び神前献供風鈴が祈禱殿拝殿内に飾り付けられ、祭壇には美しい生花や、山海の神饌物、心づくしのお供物が献供された。



斎主教主様より御言葉を賜る

大和の祈りは、他に類を見ない祈りです。私たちも何れあの世、幽世に参ります。神様の世界へ、清らかな光に包まれた世界へ行きたいものです。そのため信頼を致します。私たち大和の信仰者は皆、間違いなく神様のもとへ導かれるものと私は信じております。

大和拂神詔奉誦　火水之大事　御
鈴之大事、笛比禮大事が順に修められ、斎主玉串拝礼、参列者玉串拝礼、斎主祈念靈之儀を以て、祭儀は修められた。

私の祖父の保積敬一郎様は変わつた御方でした。祖父は富山県の出身でした。ハルビンで暗殺された伊藤博文公とご一緒していたとか色々な逸話もございます。祈祷の智慧を見え、神通力も凄い方でした。ある時開祖様に囲炉裏の真っ赤に焼けた火箸を持たせようとしました。嫌がる開祖様でしたが、あの頃は絶対命令で逆らえず、嫌々持つと熱くもなく、火傷も何もないのです。また、塩釜の高台から遠方に馬車を見つけると開祖様に『いいか史子、今から、あの馬を止めるから見ていいなさい。』と言つて、禁厭を掛けると、その馬はびくとも動かなくなります。私も今、幽冥からの祖父のお導きで修行の縁を持たせてもらつて、いるのです。私はその残されたものを、皆さんと修行の中で、今度の六根大行の中で示して参りたいと思います。

皆さんもご縁があつて修行する場所を頂けたなら、それは本当に幸せなことなのです。なかなかそういう場所はございません。私も色々なところで勉強をさせて頂きました。私の母、保積史子様もこうして私に行を執らせて下されたのです。

けてしまつた。それだけ母親には迷惑を掛けてしまつた。』と、そのような中でも甦るのです。十八歳の頃ある一人の白髪の老人から諭され、それから修行が始まり、何時の間にか、身体は丈夫になつてゐました。開祖様は何時も『行ほど尊いものはない』と申しておりました。『ご縁があり、修行が出来ることは喜びです。』と。そうして、どんどん身体も丈夫になつて、神様との交流をしておられました。そんな中、湯殿山の修行ではお金が尽きて断念をせざるを得ませんでした。そこで授けられたのが、岩手の綾里の里です。山と海の綺麗なところに辿り着きました。その時にもチヤウ様はご一緒致しました。何時も開祖様には寄り添つておられたのです。



斎主須田公子教師による感謝の祝詞奏上

九月十三日午前十時、夕刻よりの
万燈慰靈大祭に先立ちて、大國広場
金剛藏王大神社廣前において、斎主
須田公子教師のもと、金剛藏王大神
年祭が斎行され、一年間のご守護に
感謝の祈りをお捧げ申し上げた。

さい。人間は弱い生き物です。ですから縋るのです。信じて縋れば、必ず大和の神様は手を差し伸べて下さります。信じて、祈つて、神様に喜ばれるご奉仕をして下さい。それが救われる近道です。本日はおめでとうございます。」との御親教を賜り、秋のみたまつり、万燈慰靈大祭は申し修められた。

禊祓大行 六根大行 種大行と今、夫々のしつかりとした行法が固まってきたと思っております。

七五三詣

お子さまの健やかな成長をお祈り申します。



ご祈祷隨時受付
(御神札・御守り・千歳飴授
TEL 022-391-2220

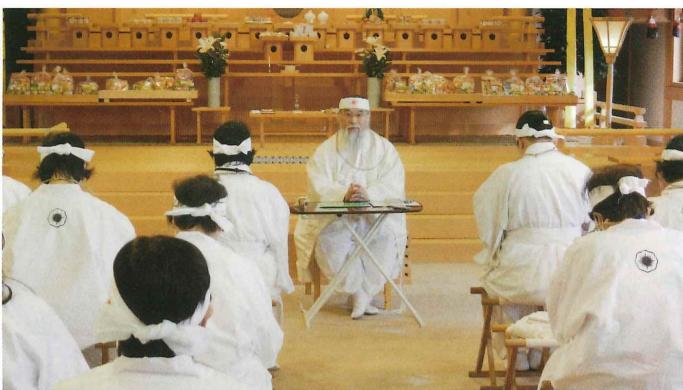
11月行事予定表	
11月28日	月始祈願祭
11月25日	秋季立教例大祭前日祭
11月21日	秋季立教例大祭
11月15日	神光龍神祭
11月11日	親神感謝祭・祖靈万靈祭
11月11日	月次祭・祖靈万靈祭
11月11日	大和地藏慰靈祭
11月11日	十種大行(→22日)
みそぎ祈願行	
開祖祭・永代奉斎之儀	
六根修養会	
一年の御神託祭	

12月行事予定表	
12月31日	12月25日
大祓	五段大祓之神儀
開祖祭・永代奉斎之儀	冬至星祭
12月15日	大和地藏慰靈祭
12月11日	月次祭・祖靈万靈祭
12月5日	親神感謝祭・祖靈万靈祭
12月1日	開祖様御生誕百十三年祭
12月1日	惟神道統百二十三年祭
12月6日	神光龍神祭
12月12日	月始祈願祭

令和二年五月三十日成満祈念五千人の集い十一月三日立教例大祭百萬願の祈りに向けた邁進致しましよう

九月二十二日、この日教主様は、午前四時に御本宮を参拝後、大國神山の摨宮末社を巡る巡拝行を行修なされ、御本宮において壹千日謹行祈願、六根大行結願祈祷をお仕え申し上げた後、引き続き祖靈殿にて祖靈万靈祭、結願淨靈祈祷を厳修なされました。

結びの教座会において教主様は、「今回の六根大行は昨年までとは大分内容が違っていたと思います。ど



祖靈殿にて教主様より御親教を賜る

私たちの生命はこの天地、宇宙の大
きな生命と結ばれています。私たち
の手、指、五臓六腑、髪の毛まで
宇宙の力とつながっています。大
和の祈りはそれを全て頸します。海
も山も川も谷も、森羅万象の全てで
す。神様を宿す。何處にですか。自
分の生命、身体でです。だから綺麗
に美しくなのです。身に着ける物も
清潔に。心の中も淨明正直。神様は
嘘をつく人は嫌いです。驕り高ぶる
人も嫌い。慎みのある人、神様を宿
すような好まれる身魂にすることで
す。皆さんに幸せを与える神様でござ
ります、自分だけ自分だけは好か
れる筈はありません。私たちの身体
は肝臓、心臓、肺臓、腎臓、脾臓が
あります。五臓と言います。木火土
金水という、五行の働きがあります。
大和神道は神身成就の信仰なのです。
大和は万物一切を救うのは、感謝
の心をつくることと説きます。家族
を、人を愛して、そういう熱いもの
を日本人の魂は持っています。そ

調和をしております。五といふ数を重んじて、五人導いて下さいと教えております。紹介するだけではなく自分も一緒に信仰して、自分の組をつくつて下さい。今、大和はその方向に進もうとしております。大勢の人が一緒の思いを込めるが、そこに大きな力が生まれます。

私は開祖様と約束を致しました。それは大和の信仰というものを生活の中に入れて、そして幸せにしていくという組織をつくると。この御山に五千人を集めて、開祖様の教えを説きたい。来年の五月二十七日にこの壱千日謹行は終わります。三十日には多くの人を集め、その教えを説かせて頂きたい。そのためにもしつかりとした信仰組織を固めなくてはなりません。信仰により、皆さんは必ず救われるのです。信仰は信じ

大和の教信奉者は
五人善導の奉謝行を
実践致します。

天地宇宙に通じる大和の祈りが出来るよう努め
て下さい。必ず救われます。多くの方々と一緒に
信仰の輩をつくって下さい。皆さん自身が、下さ
ります。「神身になつて頂きたいと思っており
ます。」との御親教にて結ばれた。

本誌九月号二面の巡拝行御入行記事事の一行目に誤りが御座いました。教主様の巡拝行御入行が七月三十日となつておりますが、正しくは、八月三十一日からの誤りでござります。お詫びして訂正致します。

令和二年十月十六日現在

譲行参列者
教座会出席者

本年は殊に御神許を拝し奉り十種神宝火繼の秘められし
神事を教主様より修行者の皆さまに傳法いたし奇毘なる
祓威を皆さまの身魂にお授けいたします

教主様は平成二十年九月一日より、幼き子供等の生命を虐待等より救済せんものと壱千日の大國神社日参謹行並びに壹千五百座の教座会五千人の善導救済の謹行に御入行なされておられ、八月三十一日からは境内地巡拝行も新たに加えられ、この十月十六日には、教座会参加者が六七五三名に達した。

教主様壹千日壹千座の謹行
千五百座の教座善導救済の奉謝行

れを大切に育てます。心の豊かさは
その人でなければ分かりません。与
えられた条件の中でどうすれば満ち
足りるのか。過ぎるものは要りませ
ん。大和は万物一切に心から本当に
感謝するという心があれば、それは

て神々を敬うことです。感謝することと、敬つて信じることです。感謝は一切を救う力です。天地にも親にも当然感謝をすることです。衣食住身の回りの物すべてに感謝するのです。感謝の心づくりを実行して下さい。

願望成就の道ひ、
大市神山参詣登拝
出羽三山

大市神山参詣登拝

萬人講のご案内

平成の御代替りて令和二年を迎えしと
本教 出羽三山登拝行事は 大神の大御心に
“心願の叶う御山”と
称えられし 大市神山参詣と
神化されました

出羽三山登拝が一体化され願望成就の神様
この機を迎え改めまして萬人講の組織構
を推進させて頂くこととなりました

講員の特典も種々ございますので奮ってご応
下されますようご案内申し上げます

大市神山出羽三山参詣登拝萬人講事務局
事務局長 福原祐 022-214-0808
事務局次長 内海政良 (タイワトラベル内)

九月二十一日から二十二日に亘り
本年度の中之行、六根大行が大市神
山大國神社において厳修された。
本行では、身体加持祓三種祈祷秘
詞^{トモ}が参行者のみに伝授され、この
奉称の秘行をもつて人体神秘の覚醒
を見る行となつた。

初日、午前七時に集合、祈祷殿に
て田中教師により二日間の行程、修
行内容が教導された。

引き続き、御本殿において大先達
教主様により始奉告祭、顯幽参行者

六根大行

身體加持祓三種祈禱

だけに伝授される秘詞であり、他見
は許されない尊い祝詞です。髪の毛
の一本一本に至るまで全身に神々は
宿り、皆さんの生命を蘇らせます。
修行の一つひとつに意味がある事を
全身で感じて、大きな力を授かって
下さい。」との御親教を賜った。
続いて第一座は品川弓教師、第
二座は田中道敏教師が夫々先達をお
仕え申し上げ、参行者は皆、大声に
ての発声行、五臓六腑の邪気を祓う
べく無心で秘詞の奉称を行つた。



千家達彦先生への感謝の祈りが捧げられた



千家達彦先生

千家達彦先生を偲びて
五年祭の感謝の祈りを捧ぐ

大和教団大國講名譽總裁・出雲
大社教第五代管長であらせられた、
千家達彦先生が、平成二十七年九月
二十四日に神上がりなされてより五
年を迎えた。

九月二十五日午前十時三十分より
大國神社祖靈殿において、斎主田中
道敏教師のもと、大國講名譽總裁・
出雲大社教第五代管長千家達彦大人
之命五年祭が、開祖祭・祖靈万靈祭
に先立ちて斎行され、参列者一同は
感謝の誠をお捧げ申し上げた。

儀式は先ず、斎主田中教師により
感謝の祝詞が奏上され、綾瓊神歌の
奉称にて千家達彦先生のご遺徳をお
称え申し上げた。



教主様を真中に祈祷殿にて記念撮影

先ず結願祈祷が御本殿にて執行され、参行者一同の願いは教主様により祈念申し上げられた。続く結願淨靈祈祷は祖靈殿にて執行され、種々の季節の神饌、花々や供物、梵天等が供えられ、参行者関縁の御靈たちの安鎮が祈られた。

次いで畠山真由美教師が講師を務め、六根大行、三界の調和について本行の奥深さ、小宇宙たる人体と大宇宙についてを深く教導した。講義後、田中教師による天鳥船神事習礼が行われ、夕食後は皆、翌日に備え早めに身体を休めた。

二日目は午前二時に起床、身支度を整え三時四十五分より、未明の大市神山の神氣を賜るべく本殿参拝がなされ、田中教師先達により天鳥船神事が修された。

引き続き、第三座を畠山真由美教師先達により修めた後、教主様の壱千日謹行第七五三日目、巡拝行三日目、結願祈禱、結願淨靈祈禱に参列した。

宮野直生先生と懇談をされる教主様

出羽三山神社宮司
宮野直生先生
表敬参拝

事務総長と暫し懇談をなされた。
その中で宮野先生から、昨年の羽黒山三神合祭殿御再建二百年記念事業として、羽黒山鏡池玉垣御奉獻並羽黒山大鳥居御建替竣工が無事に完遂致したことの御礼と、その経緯を述べられ、記念品として写真家の稻田美織氏が九年余の歳月を懸けて撮影された出羽三山の四季折々の様子が収められた写真集が贈呈された。

この後、暫しの間、本年の夏山登拝の様子や、コロナ禍での社頭状況とその対策等の意見交換が行われ、教主様からは、来年以降の萬人講登拝の教化プランが申し述べられた。

なお、本年も出羽三山神社様より夏山登拝に際して、有難くも教化費として格別なるご芳志を賜つた。謹んで御礼申し上げます。

令和二年十一月三日(祝)
午前九時三十分



長き信仰に感謝を込めての敬老祝賀会

延命長寿祈願祭 敬老祝賀会